

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和5年度
意見交換会(第3回)**

岩手県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2024年1月22日

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（1）今年度の企画（実践の場）全体概要

タイトル		企画から訪問まで、「行きたい！」「会いたい！」を実現する 三陸沿岸を訪れ、復興の姿を知る“ 三陸沿岸学び旅・交流プログラム ”
企画趣旨		<ul style="list-style-type: none">・震災から12年が経過する中、震災後、復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上により、内陸部から沿岸部へと訪れるための時間は減少したものの、震災後にあった内陸部から沿岸部への支援や交流が徐々に減少している。また、震災から12年間経過する中での、特に若年層においては震災の記憶が風化してきている状況にある。・こうした状況を踏まえ、今一度、岩手県の内陸部の学生・若者に三陸沿岸の復興の姿や魅力を知っていただくため、学生・若者自身に、三陸沿岸の事業者とも協議しながら、オリジナルの三陸沿岸ツアーを考えていただき、実際に三陸沿岸部に訪問いただく取組を実施する。
参加者		岩手県内外の若者（大学生・社会人）7名
企画内容	事前のワークショップ	<ul style="list-style-type: none">・若者にオリジナルの三陸沿岸ツアーを考えていただくワークショップを開催 開催日：10/14（土）13時～15時 場所：若者カフェ（盛岡市内）
	ツアー当日	<ul style="list-style-type: none">・11/25（土）・26（日）に1泊2日のオリジナルの三陸沿岸ツアーを開催・各ツアーの最終訪問先は沿岸各地の若者カフェの連携拠点（久慈、宮古、陸前高田）の協力により設定・行程の最後に各地からのオンラインで、参加者・現地事業者・交流人口創出等に係る外部有識者を交えて約1時間半の全体の振り返りMTGを開催

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

(2) 参加者募集

- 第2回意見交換会（8/21）後、副代表団体の皆様に協力いただき、**8/22～10/6の約1か月半に渡って参加者募集**を実施。
- 当初の企画では岩手県内の若者をターゲットとしていたが、参加者の応募状況を踏まえ、事務局より、**他県の副代表団体にも周知を依頼**。
- 結果、以下のメンバーが参加。
 - ・ **県内大学生（岩手大学）1名、**
 - ・ **県内社会人3名、**
 - ・ **県外大学生（東北大学）3名**

企画から訪問まで、「行きたい」「見たい」を実現する

三陸沿岸を訪れ復興の姿を知る 三陸沿岸学び旅・交流プログラム



参加募集!

企画概要

本プログラムでは、若手県内の学生・若者自発に、三陸沿岸の事業者とも相談しながら、オリジナルの三陸沿岸ツアーを企画し、実際に1泊2日の行程で三陸沿岸空に訪ねていただく予定です。自分で関心のあるスポットへ訪問するツアーを企画し、三陸沿岸の復興の姿を知る貴重な機会と捉えています。ぜひ応募のチャンスをお逃しください。

- 参加対象者**
若手県内が希望（大学生・社会人）15名程度
- 募集内容**（以下の内容への参加は必須となります）
 - 事前ワークショップ**
 - 開催日：10月14日（土）13時～15時（予定）
 - 開催場所：いわて若者の声（若手県庁内第11・2号若手公共会館地下）
 - ワークショップ内容：
 - 企業調査の結果／対話エリアのチーム分け／訪問したい事業所や観光／ツアー行程案の検討など
 - ※本ワークショップにおいて、ツアープログラムの具体的な内容は決定します。
 - ※研修ワークショップの終了後、事務局のサポートのもと、色紙製作やその他の活動力の向上を図ります。個別にオンラインなどでプログラム参加に関するお問い合わせも受け付けています。
 - ※全日程内については、今後の検討により変更が可能な場合があります。
- ツアー・プログラム**
 - 開催日：11月25日（土）・26日（日）（1泊2日）
 - 出発エリア：若手県久慈市、若手県宮古市、若手県鹿角市、若手県奥州市
 - ※参加者の数に応じ、オリジナルのルートを作成し各エリアを回遊いたします。
 - ※行事の開催にあたり、各エリアの事業者との連携強化に努めるとともに、お土産、体験学習等、日々の生活及び観光振興の支援と取組を行う予定です。
 - ※ツアー・プログラム本部が交通費・宿泊費・プログラム参加費について、事前に負担いたします。

- 応募方法**
- 下記URLまたはQRコードよりアクセス。必要事項を記入の上応募ください。
<https://q.e-net.jp/cv/BQCZ8T>
- 応募締め切り **10月6日（金）中**
- お問い合わせ先 「新しくまじ」公益財団法人東北若者事務局
Mail: newshiki@stn.or.jp
Tel: 013-6260-1222（受付時間：9:30～17:30 土日祝日除く）


- ① 事前ワークショップ
10月14日（土）
- ② ツアー・プログラム
11月25日（土）
～26日（日）

※本企画は「新しくまじ」公益財団法人東北若者事務局（若手県、若手大学、若手旅行、いわて伝統産業センター及び関係行政）が企画するものであり、協賛金については下記URLをご参照下さい。

○（依頼先）「新しくまじ」：<http://www.stn.or.jp/stn/cv/bqc-z8t/> / <http://www.stn.or.jp/stn/cv/bqc-z8t/>

○「新しくまじ」代表理事兼公益財団法人HFP：<http://www.newshiki.or.jp/>

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（3）事前ワークショップ

開催日：10/14（土）13時～15時
場所：いわて若者カフェ（盛岡市内）

- 以下3エリアについて、それぞれのエリアの現地コーディネーターから紹介。

久慈エリア：久慈広域観光協議会 貫牛氏

宮古・釜石エリア：（一社）浄土日和 松下氏

大船渡・陸前高田エリア：（一社）トナリノ 山本氏

- 3チームに分かれ、行程組みを実施。
さらに、ワークショップ終了後、参加者と現地事業者との間でオンラインミーティングを開催。体験コンテンツ等の調整を行い、行程を確定。

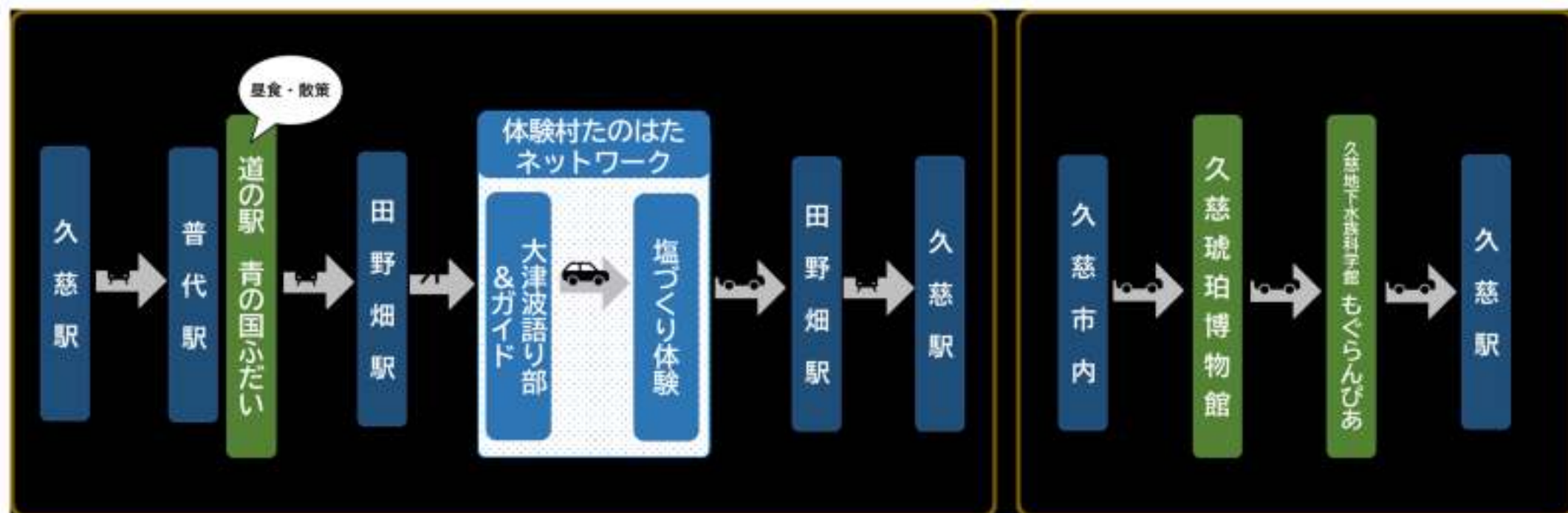


● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（4）ツアー当日

久慈エリア

参加者：県外大学生1名、県内社会人2名



● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

久慈エリア

11/25（土）

10:39 久慈駅 三陸鉄道リアス線 → 普代駅

昼食・散策 道の駅 青の国ふだい (11:25~13:00)

- ・ 地域おこし協力隊の中村さんが、ご自身で作られた野菜などをアビーロード商店街で販売されているところに遭遇
- ・ そのお野菜で作った豚汁をいただきながら、有機農業の取組や農業法人設立にチャレンジされているお話などを伺う



見学・体験① 体験村たのはたネットワーク (13:30~17:00)
大津波語り部&ガイド／塩づくり体験

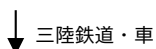
【津波語り部】

- ・ 震災前と直後、そして現状の街並みの変化や、震災当時の様子を解説
- ・ 杜氏の状況などを写真と共に街を歩きながら詳しく教えていた



【たのはた・塩づくり体験】

- ・ 番屋の塩作りの歴史から作成方法まで説明を聞く
- ・ 海水を煮詰めるための薪割りから、塩を乾燥させる工程まで体験
- ・ 一般的な食塩との味比べも面白かった



宿泊 : 市内ホテル（夕食：市内飲食店）

11/26（日）



見学・体験② 久慈琥珀博物館 (9:00~10:00)

- ・ 久慈琥珀博物館では琥珀の歴史や久慈琥珀の希少性を学ぶ
- ・ 世界唯一の見学用琥珀坑道跡を見学
- ・ 実際の採掘作業を体験



見学・体験③ 久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ (10:30~12:00)

- ・ もぐらんぴあでは宇部館長よりご案内いただく
- ・ 震災当時の状況、その後の復興にあたってはさかなくんをはじめ、多くの方の支援があったこと、再建には震災の教訓が活かされていること等について詳しく説明をいただく
- ・ 南部ダイバーの実演も見学

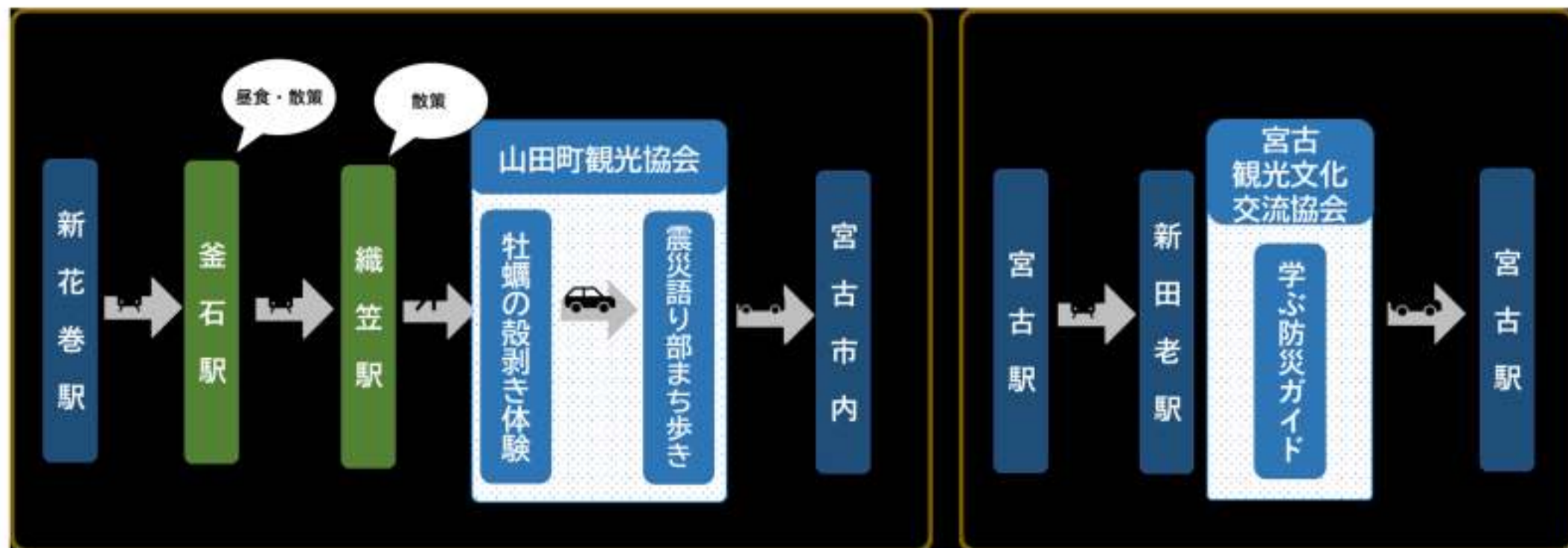


※ 紫枠の事業者とは事前にオンラインミーティングを実施

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

宮古・釜石エリア

参加者：県外大学生2名



● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

宮古・釜石エリア

11/25（土）

8:00 仙台駅 新幹線 → 新花巻駅 釜石線 → 釜石駅

昼食・散策 釜石駅周辺

(11:00~12:00)

- 釜石駅より釜石漁港・防波堤付近を散策し、震災による津波が押し寄せた様子を改めて見学
- 釜石の炭鉱労働者たちが好んだ「釜石ラーメン」で昼食



↓ 三陸鉄道リアス線

訪問・体験① 山田町観光協会・牡蠣の殻剥き体験

(13:20~17:35)

- 折笠駅→折笠漁港の道中で映画「すずめの戸締まり」のモデル地を見学(聖地巡礼)
- 荒天のため、漁港内施設にて牡蠣の殻剥き体験、試食
- 漁師の方から震災時の体験談をお話してもらう(オリジナルコンテンツ)



↓ 車

訪問・体験② 山田町観光協会・震災語り部まち歩き

(14:40~15:30)

- 新生やまだ商店街の方と山田町内を巡り、震災当時の被害状況、復興の道のりを見学
- 山田町として掲げる「津波による犠牲者を一人も出さない」町づくりのいきさつを伝承施設において資料や映像を通して学ぶ



宿泊 : 市内ホテル (夕食: 市内飲食店)

11/26（日）

↓ 三陸鉄道リアス線

見学・体験③ 田老学ぶ防災ガイド

(9:00~10:00)

- 宮古観光文化協会の鈴木氏のガイドで田老駅周辺の被災地を巡る
- 被災当時の状況や復興の様子を聞きながら現在の様子を見学
- 防潮堤などで津波が到達した高さを目の当たりにし、最後はたろう観光ホテルにて、被災当時の貴重な映像を視聴

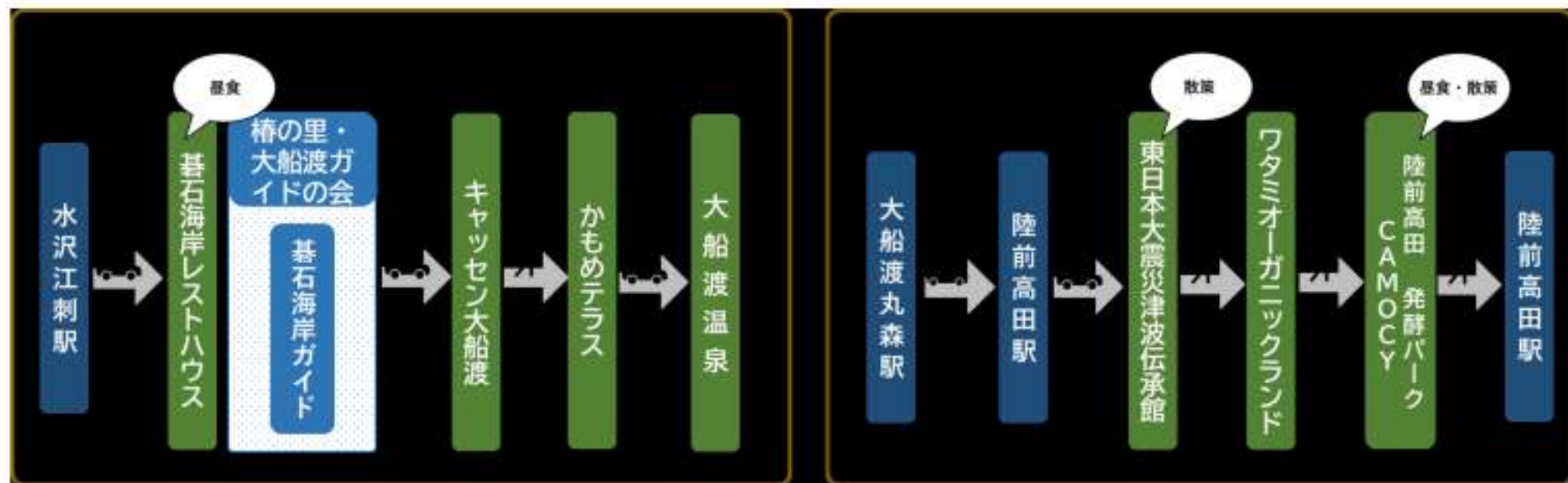


※ 紫枠の事業者とは事前にオンラインミーティングを実施

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

大船渡・陸前高田エリア

参加者：県内大学生1名、県外大学生1名



● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

大船渡・陸前高田エリア

11/25（土）

10:08 盛岡駅 新幹線 水沢江刺駅 車 基石海岸レストハウス

訪問・体験① 大船渡ガイドの会・基石海岸ガイド (13:30~14:30)

- 大船渡まちなかガイド会の方に基石海岸海岸をご案内頂く
- 基石のような礫が積み重なった基石海岸や、ジオパークにも指定されている複雑な地形を構成している自然のチカラを見学



訪問・体験② キャッセン大船渡/かもめテラス (15:30~17:35)

- まちづくりプロデューサーの千葉さんの講話
- 「防災×観光アドベンチャー」を実際に体験
- クリスマスの雰囲気デコレーションされた「かもめテラス」では銘菓カモメのたまごの歴史や、佐々木朗希の偉業などを見学



訪問・体験③ 大船渡温泉社長から震災に関する講話 (18:30~19:00)

- 大船渡温泉にて志田社長の講話
- 「被災者や復興のために働く人たちをお風呂に入れてあげる『銭湯』が大船渡温泉の設立コンセプト」という社長の想いと情熱に胸を打たれる
- 「大船渡温泉が復興のシンボルと思って貰えるのがうれしい。大船渡の観光振興のお役に立ちたい」と志田社長



宿泊 : 大船渡温泉（夕食：キャッセン大船渡）

11/26（日）



訪問・体験④ 東日本大震災津波伝承館 (9:10~9:45)

- 高田松原津波復興記念公園内を散策「奇跡の一本松」を見学
- 町全体を飲み込んだ津波の破壊力を感じる
- 陸前高田大震災津波伝承館で被害の規模と復興の道のりを学習



訪問・体験⑤ ワタミオーガニックランド (10:00~10:30)

- ワタミオーガニックファームで、復興×農業の取組を学ぶ



訪問・体験⑥ 陸前高田 発酵パーク CAMOCY (11:00~13:30)

- カモシー阿部店長からカモシーの成り立ちとコンセプト、今後の展望について講話頂く
- 事前学習でひととおり学んだものの、次から次へと出てくる未来の構想のお話に驚嘆
- 「もはや復興のステージではない」という言葉の重みを感じる



※ 紫枠の事業者とは事前にオンラインミーティングを実施 9

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（5）振り返りミーティング

- 2日間の行程の最後には、参加者と協力いただいた現地コーディネーター・現地事業者、久慈市・宮古市・陸前高田市にある若者カフェの連携拠点等に集まっていただき、振り返りMTGを実施。
- 若者目線で得られた岩手沿岸部の魅力を現地コーディネーター・現地事業者、外部有識者として（株）JTB総合研究所 主席研究員の吉口克利氏にも参加いただき「人的交流・地域の活性化」という観点から、講話・意見交換を実施。

	会場	現地側参加者
久慈エリア	OLDNEWユベントス	久慈広域観光協議会 貫牛氏 NANAMARUNI COFFEE オーナー 嵯峨氏 OLDNEWユベントス 山下氏
宮古・釜石エリア	ゲストハウス3710	（一社）浄土日和 松下氏 山田町役場 水産商工課 観光振興係 平澤氏 NPO法人みやっこベース 理事長 早川氏
大船渡・陸前高田エリア	コワーキングスペースヤドカリ	（一社）トナリノ 吉田氏



● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（参考）JTB総研主席研究員 吉口 克利氏 資料抜粋

二道市庁舎移転・交流プログラム

「人前交遊（若者×地域）による地域の活性化」

2022年11月 26日
札幌市立総合教育センター
吉口 克利氏

2. 移住・交流スタイル ① 人前交遊の場づくり

（1）移住・交流人口の確保

- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

2. 移住・交流スタイル ② 人前交遊の場づくり

（1）移住・交流人口の確保

- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

2. 移住・交流スタイル ③ 人前交遊の場づくり

（1）移住・交流人口の確保

- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

2. 移住・交流スタイル ④ 人前交遊の場づくり

（1）移住・交流人口の確保

- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

2. 移住・交流スタイル ⑤ 人前交遊の場づくり

（1）移住・交流人口の確保

- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提
- ・移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

移住・交流人口の確保は、移住・交流人口の確保が前提

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

参加者アンケート・振り返りMTGでの参加者の主な感想

(1) 事前ワークショップ

事前ワークショップへの満足度
(10段階評価)


7 : 1名

8 : 1名

9 : 1名

10 : 4名

- 各エリアごとにおすすめの訪問スポットが提示されており、グループ内で訪問箇所を絞り、行程の大枠を組むことができた。
- 事前ワークショップに参加して、旅行の際に道に迷うことを心配しなくなりました。
- その場でグループを組むというのはユニークで良かった。
- 行き先の候補などを事前に教えていただけたらもう少し深く検討できて良かった**かと思います。
- 訪問先リストがあったが、**若者が行ってみたい場所が少なかった**。
- ちょっと**時間が短かった**。

- 
- 行程を事務局で作成して単に参加者募集をかけるという方法ではなく、**事前ワークショップを介して、参加者に工程を考えていただくという方法をとったことは、各地域の理解を深め、ツアー当日の充実度を高めることに効果的であった**と考えられる。
 - **ワークショップの複数回開催・事業者との事前調整の時間の更なる確保**、という工夫が考えられる。
 - 訪問先リストについては、**実際に訪問すると充実した体験となっていることを考えると、さらに若者に魅力を伝えるような形での紹介が求められる**か。

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

(2) プログラム全体の感想

<現地の方との交流を軸足と置いたプログラム設計への感想>

- 訪問先の方々と交流をしながら、地域の文化や歴史に触れることができた。東日本大震災の被災状況やその後の復興の歩みについて学ぶことができた。
- 同じ県内沿岸地域でも、それぞれに特徴があり、面白い。
コーディネーターをはじめ、現地の方々の人柄が良かった。
塩作り体験等、普段できない経験をすることができ、貴重な機会になった。
- もし1人で普通に旅行し、買い物をしても魅力が感じられなかったかもしれないが、今回、貫牛さんと食事をしたり、水族館の館長さんをご紹介いただいたことで地域の方々と交流ができたため、特別な地域の魅力を感じられました。
- 自分で行きたい場所を決めることができた点、現地のガイドさんのお話を聞くことができた点が良かった。
- 訪問先の方々から、311当時の話と311直後に地域へどんな貢献ができるのかを考え、実行したから現在の状況に至ったなどの話を聞いて良かった。
- 小中で行った震災復興学習や、個人的に観光で行った陸前高田や大船渡では分からなかったことが、地元の企業さんとヒアリングの時間を設けていただいたことで知ることができました。
- 我々は震災学習がメインだったのですが、ただ1人で見ただけではなく、いろいろな方のお話を聞くと理解度や臨場感が深まったので、ガイドさんの方々に本当に感謝しています。
- 震災復興の段階はもうおわり次のフェーズにあるとよく心にしながら旅をしていたが、まさしくそうで、震災で街がおおかたなくなってしまったからこそできた、今の世界の流れにあった環境保全の取り組みや、美しい街並み、全国の様々な方からの支援による魅力のある建造物などが印象に残っている。また、震災を経験された地元の方の話を聞く中で、地元のために自分にできることを考えてとにかく行動するというところが力強く印象に残っています。人も街も景色も魅力のある地域だと思った。
- 震災があったからというものもあるかと思いますが、人と人の繋がりを感じました。隣の人の玄関にやって来ておすそ分けをすることも自然に行われており、そういったことが日常にあるということを知ると、町の人たちの仲の良さや関係の強さが魅力的だと思いました。また、震災でその町全部が無くなってしまったからこそ、今の環境保全といった問題も考えられた街作りがされており、元からある自然と、その自然に入っている建物や街作りというのが魅力的で、そういう景色を楽しむ観光をもっと進めていったら内陸の方々も来てくれるのではないかと思います。

プログラムの満足度
(10段階評価)

10 : 7名

三陸沿岸の取組や魅力を知ることができたか。
(4段階評価)

できた : 4名

大変できた : 3名

今後も三陸沿岸の様々な取組に参加したいか。
(4段階評価)

そう思う : 2名

大変そう思う : 5名

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

＜反省点＞

- 1泊2日の行程であった点（2泊3日だともっと良いと思いました！） 移動手段が公共交通機関のみであった点が反省点。
- ツアーの日程は少しタイトだと思い、各エリア地域の良さを深く探るのができなかったことが反省点。
- もう少し視察する場所の事前調査を行えばよかったと思う。

＜今後もこのプログラムを継続することに対する意見＞

- もう一度参加したい。
- **自分が高校生の頃に三陸沿岸のことを知る機会があったら良かった、もっと早く知りたかった**と思いました。母校にもツアー紹介してあげたいです。
- 特に**県外では、東日本大震災の風化が進んでいると感じており、震災の伝承や三陸沿岸の魅力を発信するためにも、対象を拡大して継続**することを期待する。
- **東北三陸地域の魅力をより多くの方に体験していただきたいと願っておりますので、継続するべき**と思います。旅先で撮った写真をSNSに送ってルームメイトに伝え、三陸地域への期待に胸を膨らませ、旅行に行きたいとのことでした。このイベントが継続されることで、皆様の三陸への注目がさらに高まっていくと思います。
- なかなか三陸沿岸（特に岩手）へ行く機会がないので、**内陸部の人間にとってはとても良いプログラム**だと思った。岩手、宮城に限定せず、他の**東北六県居住者から募集しても良い**と思った。（ご予算の許す限りですが、．．．）
- **311当時・直後の話、今後の思いが聞けたため継続するべき**。例えば、今回のチームが別のチームが組んだツアーに参加して感じたことをシェアするのはいいのではないかと思います。
- 個人的には自分のような内陸に住んでいるものが沿岸にいき、今回のような2、3人で地元の人のお話を聞きながらその地域のことを知っていくというのは、**小中学校で震災復興学習に行っているとはいえ、その時とは全く違う視点からそのまちについて考えることができたので自分の中で新しい見解を得ることができたため、非常に今後のためになる考えを手に入れることができたため、継続するべき**だと思う。しかも事前から今回の旅の目標をみんなで共有して、意識を高めることが重要だとも思いました。

○ **現地の方との交流を軸足と置きプログラムを設計**したことは、「人の魅力」という三陸地方の長所ともかみ合い、**参加者には高評価**でした。

○ 参加者からは、内陸部の方々や県外の方々向けに、震災の伝承や三陸沿岸の魅力を発信するためのコンテンツとして、**対象を拡大して継続するべきという意見が多数**でした。

● 1. 今年度の企画（実践の場）の実施報告

参加事業者・コーディネーターの感想

＜本プログラムの評価できる点＞

- 人的交流にウェイトを置いていた点が良かった。
- 岩手沿岸地域を縦につないで、点の事業ではなく線の事業にできた点が良かった。
- プログラムを作り上げる際や振り返りミーティングなどの機会により、事業者同士の連携が深まった。
- 通常の業務の中では、同年代かそれ以上の方とやり取りすることが多い中、若い方と交流しながら観光コンテンツを組み立て現地で交流するという点が貴重だった。

＜反省点＞

- 運営面として、三か所同時の進行管理は難しい。また、旅行業法的にやり方が難しいところも多く、旅行エージェントを入れるほうが妥当。
- コース選定に係る準備期間も半年程度は必要か。内陸からの参加者集めも周知方法などに、より検討の余地があるのではないか。
- 全体的にスケジュールとリソースが不足していた。
- 参加者ももっと増やすべきですが増やした場合は現在の受け入れ体制では対応が出来ませんので、受け入れ側のリソースを強力にすべきです。

● 2. 意見交換（論点1 今年度の振り返り）

論点1

今年度については、「沿岸と内陸部を繋ぐ」ことを取組テーマとし、以下のような視点をもって企画を検討した。これまでの実施報告も踏まえ、**今年度取り組んだ内容についての良かった点／反省点・改善点等**について、ご意見いただきたい。

これまでの取組等から 見えてきた課題

- ・内陸－沿岸間の物理的距離
- ・震災から12年間経過する中での、内陸－沿岸間の関係の希薄化（心理的距離）
- ・若者や女性の県外流出・県内移動（沿岸部→内陸部）
- ・震災から12年間経過する中での、特に若年層における震災の記憶の風化
- ・地域のプレイヤー不足
- ・県全体のプレイヤー・観光資源が一元化されて見える形になっていない
- ・地域プレイヤー間の連携不足

機会

- ・復興道路・復興支援道路の全線開通による交通の利便性の向上
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行等に伴う観光需要の復調
- ・盛岡の観光需要の増大（NYタイムズ 2023年に行くべき52か所への選出、WBCでの岩手県出身選手の活躍など）

課題解決・機会を活かすために 考えられる視点・目的

- ① **「沿岸と内陸部を繋ぐ」**ことを取組テーマとする
- ② **若者や女性**を巻き込んだ企画する
- ③ 取組を通じた、**地域のプレイヤー・観光資源の洗い出し**を行う
- ④ 一過性ではない、今後の継続的な**地域のプレイヤー間の連携の創出**につながるような企画とする
- ⑤ **内陸の方を沿岸部に実際に連れてくる**ような企画とする
- ⑥ 今後、国内・海外から岩手内陸部に訪れた方にもアプローチできるような**発展性・継続性のあるものとする**

● 2. 意見交換（論点2 次年度の取組内容）

論点2

今年度の取り組みを受けて、**次年度の取組をどのように進めていくべきかを議論したい。**

○ 議論のポイント

・ 来年度の企画として、本年度の内容を継続するか。

- ✓ 事務局としては、本年度の企画について、「沿岸と内陸部を繋ぐ」という取組テーマに沿った企画であり、岩手県沿岸部の魅力発信や事業者連携の創出につながるポテンシャルを秘めているのではないかと考えています。
一方で、継続的な企画としてのスキームとして成立させるためには、まだ課題もあるため、**必要な見直しをしつつ、協議会の岩手県の取組として実施することが一案**として考えられますが、この点についてご意見をいただきたく存じます。

・ 来年度継続実施する場合には、以下のような点をどう考えるか。

◎ 参加者募集の方法・スケジュール・取組内容

- ✓ 参加者の確保に向け、例えば、本年8月下旬～10月上旬に実施した**参加者募集を早め、大学の新入生等をターゲットとして、夏季休暇前に募集する**ことが考えられます。また、**岩手県外の方も対象と含める**ことなど、参加者の募集方法についてご意見をいただきたく存じます。
- ✓ **ワークショップの開催頻度**を増やすこと等のスケジュール感や、**取組結果のアウトプット方法など取組内容の改善点**についてご意見いただければと思います。

◎ 対象地域・現地側の体制

- ✓ 今年度の取組では、**沿岸部を大きく3つのエリア**に分けて、各地のコーディネーターと連携しながら訪問先リスト等を作成しました。**来年度も同様の地域区分とするのか**等について、ご意見いただければと思います。

◎ R7年度以降の実施体制

- ✓ 本年度の企画のような継続性が求められるプロジェクトを、**今後も地域に根差した取組として実施していくためには、地域側での実施体制について検討していく**ことが求められます。今年度の取組では、「いわて若者カフェ」との連携、大学生等若い方へのアプローチといった観点で、副代表団体の皆様にご協力いただきましたが、こうしたことも踏まえ、**R7年度以降の実施体制**に関するご意見をいただければと思います。

・ 来年度継続実施しない場合には、どのような取組とすべきか。

参考資料

● 3. 過年度実施状況：全体像

参考：令和5年5月18日
第1回意見交換会 資料1

- 岩手県のこれまでの取組では、「**関係人口の増加**」に着目して取組を実施
- 令和4年度の意見交換会・実践の場では、2023年のG7、2025年の大阪・関西万博、各種MICE等を見据え、**みちのく潮風トレイルを活用した、沿岸部のエクスカージョンプログラム**を検討

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
テーマ	関係人口の増加	関係人口増加から生まれる価値と、関わりを生むためのプロセス	三陸沿岸の地域経済の担い手支援	東日本大震災から10年目にあたって	関係人口を活用した集中的な地域の魅力の磨き上げ、PR、モデルづくり	関係人口を活用した持続可能な地域づくり
実践の場	ラグビーワールドカップ釜石開催PRイベントの開催 「岩手三陸地域における関係人口の増加に向けた調査」の実施	「関係人口×〇〇で考える三陸の未来」（宮古市） ブースセッションとパネルディスカッションによって、複数の切り口から、関係人口増加の価値や関わりを生む仕掛けづくりを紹介	「さんりく事業成長セミナー・交流会～オール岩手で経営層をサポートします～」（大船渡市） 企業やNPOなどの現役経営者および次世代リーダーに対して、行政と民間支援機関が連携して事業成長を支援するため、支援策の特徴や活用事例を紹介するセミナーと交流会	「いわて沿岸とつながる交流会－これまでの10年を未来の力に－」（陸前高田市） これまでの復興活動の思い出や、伝承していきたい大切な記憶・教訓を振り返り、共有し合い、また、教訓・つながりを活かして今後取組たいことや目指したいことのアイデアを共有	「釜石の今と未来を考える 座談会」（釜石市） 地域の課題に挑戦している事業者の（有）宝来館 代表取締役社長 女将 岩崎 昭子氏とともに、地域の今までの歩みやこれからの発展について協議。これら協議の結果に関する意見交換をする場として「釜石の今と未来を考える 座談会」を開催。	「みちのく潮風トレイル体験から三陸沿岸地域の復興の姿を知るエクスカージョンプログラムモニタリングツアー【宮古コース編】」 一般社団法人 浄土日和とともに、みちのく潮風トレイルを活用し、行政関係者や学者、研究者など知識層を主なターゲットとして想定した、モニタリングツアーを実施。